# 30［俳句］・　ほか

Ａ　くへば鐘が鳴るなり （　　　　　　）

Ｂ　有るの菊げ入れよの中

Ｃ　春風や闘志いだきて丘に立つ 高浜虚子

Ｄ　かごからほたる一つ一つを星にする

Ｅ　滝落ちて世界とどろけり 水原秋桜子

Ｆ　つきぬけて天上の

Ｇ　をりとりてはらりとおもきすすきかな

Ｈ　をしても一人

Ｉ　鳥わたるこきこきこきと切れば

Ｊ　ねむりても旅の花火の胸にひらく

●語注

法隆寺＝奈良・町にある聖徳宗の総本山。聖徳太子の建立と伝えられる、現存する世界最古の木造建築。

曼珠沙華＝彼岸花のこと。

問１　Ａ・Ｂ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｊの季語を抜き出し、その季節を答えよ。 1点×14

　　　　　　季語　　　　　　　季節

Ａ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

Ｂ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

Ｄ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

Ｅ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

Ｆ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

Ｇ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

Ｊ〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　〕

問２　Ｃ・Ｅ・Ｇ・Ｊの句の切れ字を答えよ。ただし、一つだけ切れ字のない句がある。それには×をつけよ。2点×4

Ｃ〔　　　〕　Ｅ〔　　　〕　Ｇ〔　　　〕　Ｊ〔　　　〕

問３　Ｄの句で「かごからほたる」の後にはどのような言葉が省略されているか答えよ。3点

〔　　　　　　　　　　　〕

問４（１）無季自由律の句と考えられるものはどれか。

　　（２）擬音語を効果的に用いているものはどれか。

　　　　　　それぞれ句の記号で答えよ。2点×2

（１）〔　　　〕　（２）〔　　　〕

問５　Ｅの句で「群青世界」は一種の比喩表現である。何をこのようにたとえたのか説明せよ。3点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　Ｆの句について。

　　（１）「つきぬけて」とあるが、この句において「つきぬけ」るのは何と何か、二つ答えよ。2点×2

〔　　　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　〕

　　（２）この句は「曼珠沙華」で大きく変化している。どのようなものからどのようなものへと変化しているか、二つ説明せよ。2点×2

▽〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

▽〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７　次の説明に当てはまる句を選べ。2点×4

ア　哀悼の意　　　イ　表記の工夫

ウ　孤独感　　　　エ　追想

ア〔　　　〕　イ〔　　　〕　ウ〔　　　〕　エ〔　　　〕

問８　Ａの句は明治の半ば、俳句革新を成し遂げた日本派と呼ばれるグループの中心人物の句である。この人物名を漢字で答えよ。2点

〔　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問１　Ａ＝柿・秋　Ｂ＝菊・秋　Ｄ＝ほたる・夏　Ｅ＝滝・夏

　　　Ｆ＝曼珠沙華・秋　Ｇ＝すすき・秋　Ｊ＝花火・秋

問２　Ｃ＝や　Ｅ＝けり　Ｇ＝かな　Ｊ＝×

問３　（かごからほたる）を出して・放して

問４（１）＝Ｈ　（２）＝Ｉ

問５　滝の周囲の木々の緑や空の青さ（滝や滝壺も含めて考えてよい）

問６（１）空・曼珠沙華

　　（２）天上の紺から曼珠沙華の赤への変化（色彩の変化）

　　　　　天上から地上への変化（位置の変化）

問７　ア＝Ｂ　イ＝Ｇ　ウ＝Ｈ　エ＝Ｊ

問８　正岡子規

■覚えておきたい語句

□Ｅ　群青……………………鮮やかな青色。

【句の大意】

Ａ＝柿を食べていると鐘が鳴るなあ。法隆寺の（鐘が）。

Ｂ＝有るだけの菊の花を投げ入れよ、棺の中へ。

Ｃ＝春風が吹いている。その春風の中、（私は）闘志を心に抱いて丘の上に立つ。

Ｄ＝かごからほたるを一匹ずつ出して放してやる。ほたるは星のように光ってみえる。

Ｅ＝滝が流れ落ちて、周りの木々の青々とした世界にとどろいている。

Ｆ＝秋の空は突き抜けたように晴れ上がり、その下に赤い曼珠沙華がすっきりと咲いている。

Ｇ＝折り取ってみると、はらりとした重さを感じるすすきだなあ。

Ｈ＝咳をしても、周りには誰もいない、私一人だ。

Ｉ＝鳥が渡ってゆく、こきこきこきと缶詰を切っていると。

Ｊ＝ねむっても、旅で見た花火の美しさが思い出されることだ。

《作者》

□正岡子規　　『』を刊行し、俳句革新を志す。を高く評価し、「写生」の方法を主張した。

□夏目漱石　　小説家。日本近代文学史上の巨匠。俳句は正岡子規の影響を受ける。

□高浜虚子　　正岡子規に師事。「花鳥」を提唱。「ホトトギス」を主宰。

□荻原井泉水　の新傾向俳句運動に参加。句誌「層雲」を創刊。後、季題無用の自由律俳句を唱道。

□水原秋桜子　「ホトトギス」を支えた虚子門下４Ｓの一人。やがて、「ホトトギス」から離れ、「馬酔木」を主宰。

□山口誓子　　虚子門下４Ｓの一人。後、「」に参加。新興俳句運動を興した。秋桜子と対立し、「」を創刊。

□飯田蛇笏　　「ホトトギス」代表俳人の一人。俳誌「」を主宰。

□尾崎放哉　　井泉水の「層雲」に投句。厳しい孤独の中で口語自由律句を制作。

□秋元不死男　誓子の「天狼」創刊に参加。「天狼」東京句会を中心にして「氷海」を創刊。

□大野林火　　俳誌「」に参加。に師事。俳誌「浜」を主宰。

【読みのセオリー】

★短詩型文学の特色を考える

　俳句も短歌と同じ短詩型文学である。短歌のセオリーが、俳句にも当てはまる。

　俳句は短歌に比べて十四音短い。それゆえ、どうしても省略が多くなる。何が省略されているのか、五七五の裏に隠された謎を読み解くことが俳句のポイントである。

■読みのセオリー［実践］短詩型文学の特色を考える

問３　書かれていなくてもわかるから［１　　　　　　　］するのである。

　「かごからほたる」をどうするとは述べられていないが、「かごから」の「から」がここでの手がかりになる。

　「から」だから、かごからほたるを［２　　　　　］やる。

そして一匹一匹の蛍が飛んでいるさまを［３　　　　　　　］と詠っているのである。

〔解答〕　１省略　２出して（放して）　３星にする

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問１　俳句の中から秋の季語をすべて答えよ。

　［答］　Ａ柿（秋）　Ｂ菊（秋）　Ｆ曼珠沙華（秋）　Ｇすすき（秋）

＊差し替え

問８　Ｃの句の作者は、正岡子規に師事し、俳誌『ホトトギス』を主宰した人物である。人物名を漢字で答えよ。（Ｃの作者名を空欄に）

　［答］　高浜虚子